

2022 年度 大学入試説明会

進路指導部

1. 大学入学共通テストの概況

(1) 全体 530,367 人 (昨年比 -4,878 人)

現役 449,369 人 (-426 人) (高卒者が 20,050 人減少の 996,425 人)

過年度生 76,785 人 (-4,222 5.2%の減少) (その他は高卒認定試験)

現役の占める割合 84.7% 現役生の志願率 45.1% (過去最高)

(実際の受験者は 488,384 人で受験率は 92.1%、昨年は 90.4%)

共通テストの利用大学は 864 大学で国公立大は全大学、私立大は 90%が利用

*2021 年度大学受験者 69 万 6 千人、入学者 63 万 8 千で浪人は 5 万 8 千人に対し、共通テスト受験の過年度生が 7 万 7 千なので再受験の大学生が 1 万 9 千人に上るため。

(昨年の再受験生は 2 万 2 千人)

*5 教科 900 点の受験者は 57.3% (昨年 57.8%)

*2022 年度の大学の全受験者は 67 万 8 千人で倍率は 1.01 倍、2023 年度は 66 万 1 千人で 0.98 倍、2024 年度は 63 万 9 千人で 0.95 倍と予想されます。

(2) 大学入試センター発表の科目別全国平均 (昨年比) (合計は河合塾の集計)

英語 (筆記) 62 (+3) リスニング 59 (+3) 国語 110 (+7)

数学 IA 38 (-20) 数学 IIB 43 (-17) 日本史 53 (-11)

世界史 66 (+2) 倫理・政経 70 (+1) 地理 59 (-1) 物理 61 (-2)

化学 48 (-10) 生物 49 (-24) 化学基礎 28 (+3) 生物基礎 24 (-5)

理系 5 教科 7 科目 513 点 (-64) 文系 6 教科 7 科目 508 点 (-44)

平均点の推移 理系 576 点('19) 559 点 ('20) 577 点 ('21)

文系 570 点('19) 548 点 ('20) 552 点 ('21)

*数学・日本史・化学・生物などで平均点が大幅に下がり、7 科目で過去最低の平均

(3) 本校現役生 (60 回生) の共通テスト結果 (昨年比)

英語 133 (+7) 国語 123 (-9) 数学 IA・48 (-17) 数学 IIB・50 (-15)

日本史 61 (-7) 世界史 71 (+7) 倫理・政経 71 (+5) 地理 59 (-4)

物理 62 (+1) 化学 56 (+4) 生物 54 (-23) 化学基礎 36 (+5)

生物基礎 28 (-8) 合計 理系 544 点 (-35) 文系 609 点 (+18)

全国平均が大幅に低下する中で、文系は 8 名と少数ながら健闘している。(合格者は東大、北大 2 名、金沢大など)

度数分布

780 点以上	0 人(文 0・理 0)	昨年度 3 人[文 1・理 2]
740 点以上 (累計)	3 人(文 1・理 2)	8 人[文 3・理 5]
700 点以上	7 人(文 2・理 5)	11 人[文 4・理 7]
660 点以上	15 人(文 3・理 12)	16 人[文 6・理 10]
620 点以上	22 人(文 4・理 18)	24 人[文 9・理 15]

(4) 共通テスト自己採点データリサーチと実際の受験校が同じ「初志貫徹率」

	リサーチ国公立大	初志貫徹出願者	合格率
2021 年	198,205 人	78,768 人 (39.7%)	40.1%
2022 年	195,315 人	82,305 人 (42.1%)	40.4%

難関大の初志貫徹率

北大	53.1% (+0.6)	東北大	53.0% (+2.1)	東大	68.3% (-1.5)
東工大	64.5% (+2.9)	一橋大	69.0% (+2.5)	京大	63.0% (-1.7)

* 共通テストの平均点大幅ダウンにもかかわらず難関 10 大学の志願者は昨年の 67,613 人から 69,654 人 (103%) へと増加し、医学部の志願者も増加するなど「強気出願」の傾向が見られます。

* 「逃げない成績上位者」に加えて、難関国立大と難関私立大の併願が増加。

(5) 問題分析

【英語】: 問題文、設問、選択肢すべて含めると 6044 語で昨年より 500 語程度の増加で「速読力」の重要性が増す。「情報を読み取る力を問う」という問題作成方針に沿って多様な形式の出題。イギリス英語の表現や綴りも本文に使われたがレベルは昨年並み。リスニングは聴き取った情報を他の表現で言い換える力、選択肢を素早く読み取り、情報を整理するスキルが求められた。

【数学】: 「IA」は典型的な問題が少なく目新しい問題が多く、解答の方針が立て難く高度な思考力を要し難易度が高い。過去問の演習だけでは対応できず、時間内に解ききるのは困難。「IIB」は問題文が長くページ数も 5 ページ増加し、問題文の行数が 1.4 倍になり、時間内には解き終わらない。会話文を含む問題が多く、「数学的な問題解決の過程を重視する」出題が多く、「数列」は日常生活を題材として出題された。

【国語】: 現代文は異なる筆者の二つの文章(3500 字)を読み比べて論旨を掴み、第 2 問の小説では辞書の記述と俳句と結びつけるなど新傾向の問題が見られた。

古文は二つの文章の表現や内容の特徴・差異について歴史物語や日記といっ

たジャンルの違いも含めて考える問題。漢文は詩と散文が提示され、「複数の題材による問題」「多面的・多角的な視点」の出題方針に沿った問題。全体的にやや難化。

【化学】受験生にとって見慣れない題材（アルケンのオゾン分解）を扱った問題で図・グラフの読解力を要する問題、正答に至るまでのステップが複数ある思考力を要する問題や計算力を要する問題が多数出題され、やや難化。

【生物】教科書に記載されている知識や資料から読み取った情報を活用して、初見のデータを解釈する問題が多く出題され、異なる分野で学んだ内容を関連づけて考察する分野融合問題も出題された。図表・グラフなど複数の資料から情報を読み取り、整理・統合して判断する問題や仮説や実験から導かれる結論を考察させる問題などかなり難化し、過去最低の平均点。

【日本史】文章資料・年表・地図など多様な資料が多く用いられ、史料・資料の読解力が重視された。生徒の調べた内容をまとめたメモや年表を素材に、論理的に考察する問題、朝鮮との貿易など世界の歴史と関連付けて日本史を捕らえる視点が求められ、設問の意図を把握するのに時間を要するなどかなり難化。

(6) 共通テスト英語配点比率

R（筆記）100点・L（リスニング）100点の比率は大学が決定

R : L 1 : 1（北大、札幌医大、東工大、九大）

3 : 1（東北大、名古屋大、京大、阪大、東京医科歯科大、浜松医大）

4 : 1（筑波大、千葉大、神戸大、新潟大、信州大）

* 東大は 7 : 3、東京農工大は 13 : 7 など独自の配点もある。都立大は学部で様々。

2. 国公立大入試状況

国公立大前期 志願者 234,557 人 合格者 91,912 人 倍率 2.6 倍（昨年 2.6 倍）

国公立大後期 志願者 163,412 人 合格者 21,299 人 倍率 7.7 倍（7.2 倍）

国公立大中期 志願者 31,380 人 合格者 4,831 人 倍率 6.5 倍（5.7 倍）

* 前期の志願者は昨年比 100% とほぼ同じですが 5 年前と比べると志願者は 10% 減少し、倍率が年々下がっています。

* 地方国立大を中心に募集人員に対しかなり多くの合格者を出す大学が見られ、私立大の競争緩和の影響です。

（募集定員と合格者：釧路公立大—募集 65 人・合格 447 人（6.9 倍）

都留文科大—118 人・286 人（2.4 倍） 北見工大—153 人・297 人（1.9 倍）

*後期の欠席率は過去最高の 62.9%

*第1段階選抜不合格数(足切り)は前期 3,29人、後期 5,107人の合計 8,136人でした。(昨年は 6,290人)

「前期」:東大 837人 都立大 376人 一橋大 217人 滋賀医大 163人

「後期」:山梨大 713人 大阪公立大 681人 一橋大 434人 東北大 349人

*志願者の多い大学

大阪公立大 13,188人(5.4倍)、千葉大 10,631人(5.1倍)、神戸大 10,123人(4.4倍)
北大 9,516人(4.0倍)、東大 9,507人(3.2倍)、九大 7,692人(3.4倍)

(1) 難関大学の出願状況

北大 110% 東北大 100% 東大 105% 一橋大 106% 東工大 105%

京都大 102% 大阪大 107% 名古屋大 95% 九州大 101%

*旧帝大を中心とした難関10大学全体では102%、準難関大100%と全体的に積極的に上位大学を受験したことが見られます。特に大きく増加したのは北大では歯学171%、総合文系112%、東大は文2が107%、理2が113%、京大は農学113% 工学111%、大阪大は経済121%、工学113%などです。

【北大】:前期(106%)、後期(117%)ともに高い志願増加率。前期は法学(92%)と減少する一方で経済(105%)と増加。総合理系では「総合科学(130%)」、「化学重点(110%)」と増加し、「数学重点(83%)」は減少。

【東北大】:前期志願者は98%微減となったが文学(108%)、理学(108%)は増加。医学(100%)は昨年並みで歯学(65%)は2年連続で減少。後期の理学部は113%と増加し、経済は98%と減少。

【東大】:全体的には4年ぶりに105%と増加。文2が107%、理2が113%で昨年理1より合格最低点が低かったことから志願者が集まった。第1段階選抜合格者の平均得点(900点満点)が60点下がるなど共通テストに苦戦。

【京大】:志願者は9年ぶりに102%と増加。薬学122%、農学113%、教育118%が大幅に増加。平均点が下がった共通テスト数学・理科を合否判定に利用しない工学も111%と増加。情報4.6倍、建築3.7倍で工業化学は1.4倍。

【大阪大】:志願者は4年ぶりに107%と増加。法学128%、経済121%、工学113%、薬学122%、人間科学も122%と人気。

*合格者の現役生比率

北大 72.3%(昨年 70.6%) 東大 71.9%(71.8%) 京大 67.2%(64.75%)

大阪大 72.9%(72.5%) 新潟大 87.7%(87.2%) 都立大 81.5%(84.2%)

(2) 系統別の志願指数

法学 97% 経済 99% 人文 103% 医学 102% 歯学 96% 薬学 105%
理学 109% 工学 99% 農学 110% 国際関係 115%

- * コロナ禍の影響で減少が続いていた語学・国際関係は人気回復傾向にあり医療系も人気が続いている。法学では「法律」は増加する一方で「政治」は10%の減。経済は国立大が増加する一方で公立大は10%の減。
- * 理学部では「数学・物理」で増加し、工学部では「機械・航空」で大きく増加し、「生命工・生物工」も増加。農学はSDGs（持続可能な開発）への関心から増加へと転じた。
- * コロナ禍を背景に、就職を意識して難関資格に関連深い「医学・薬学」を志望する傾向が強まり、医療系は堅調。
- * 薬剤師国家試験の合格率は国立大が84.4%で私立大が66.9%でした。
- * 学際系（総合・環境・人間）も人気が続いている。

(3) 難関大学合格者の共通テスト平均得点と2次試験偏差値（ベネッセ）

北大（法学 677・67、経済 668・65、総合文系 684・68、綜合理系 663・64
医学 743・75、水産 616・60）

東北大（経済 679・64、理学 695・68、工学 694・67）

東大（文二 760・78、理二 764・77）

一橋大（法学 728・73、経済 718・71） 東工大（工学 692・70）

京大（経済 743・74、工学 743・74）

(4) その他の大学の共通テストボーダー得点と2次試験偏差値（ベネッセ）

小樽商大 585・56 はこだて未来大 512・48 室蘭工大 460・46

弘前大（人文）554・53、（理工）509・50、（農学）500・50

岩手大（理工）514・49、（農学）547・53 秋田大（理工）462・48

山形大（理学）533・50、（工学）497・49 国際教養大 740・70

筑波大（社会）676・67、（理工）673・63 （生命）654・62

千葉大（法）631・643、（理学）634・61、（薬学）692・65

都立大（経済）665・61、（システム）641・57 電気通信大（情報）620・59

横浜国立大（経済）653・65、（理工）649・62

横浜市立大（国際商）625・58、（理学）632・58

大阪公立大（法）634・64、（工学）616・59、（理学）618・60

(5) 医学部共通テストボーダー得点と2次試験偏差値(ベネッセ)

北大 743・74 札幌医大 705・68 旭川医大 671・67 弘前大 673・65
東北大 739・76 秋田大 698・66 山形大 678・68 福島県立大 672・70
筑波大 746・74 千葉大 741・76 横浜市立大 760・76 信州大 722・72
東京医科歯科大 773・78 浜松医大 695・71 大阪公立大 749・70

3. 私立大入試状況

受験者 322 万人(前年比 100%) 一般 215 万 (100%) 共通テスト 107 万人
平均倍率 2.9 倍 (昨年 3.1 倍)

* 志願者全体は昨年並みで合格者は 107%と倍率は低下して競争は緩和。

* 私立大学入学者で筆記試験で入学は 49%と半数を切り、推薦入試が 41%、総合型入試が 10%となっています。(国立大は試験が 85%、推薦・総合型が 15%)

(1) 主要私大の志願者・合格者・実質倍率

早稲田大 93,843 人 (昨年比 102%)・15,021 人・5.7 倍 (-0.1)

慶応大 37,894 人 (103%)・9,975 人・3.5 倍 (-0.1)

上智大 22,503 人 (84%)・7,153 人・3.1 倍 (-0.7)

中央大 64,795 人 (83%)・18,561 人・3.3 倍 (+1.2)

法政大 108,343 人 (119%)・22,986 人・4.5 倍 (+0.2)

明治大 102,426 人 (103%)・26,688 人・3.6 倍 (-0.2)

* 私立大の合格者は年々増加しているが 47%は定員割れ。私立大 600 余で上位 22 大学で受験者の 45%を占めます。合格者の出し方は「正規合格できなくても追加合格が期待できる大学」「最初に合格しないと追加合格は厳しい大学」に分かれる。

「追加合格を多く出す大学」: 慶応大 1,504 人 (15%) 上智大 2,266 人 (32%)

法政大 2,666 人 (12%) 立教大 2,804 人 (18%)

「正規合格を多く出す大学の追加合格」: 905 人 (6%) (正規合格は前年比 109%)

同志社大 279 人 (2%) (正規合格 105%) 関学大 1,357 人 (9%)

(2) 主要大学の実質倍率と合格者平均偏差値(ベネッセ)

早稲田大 (法 4.8 倍・75 商 9.3 倍・72 社会 9.4 倍・72 基幹 3.8 倍・75)

慶応大 (経済 3.4 倍・76 法 4.2 倍・77 商 3.2 倍・76 理工 2.8 倍・75)

中央大 (法学 3.4 倍・69 経済 4.2 倍・61 商学 3.8 倍・63)

明治大 (法学 4.1 倍・67 政経 3.1 倍・68 商学 4.3 倍・66)

東京理科大 (理工 3.0 倍・66 工学 3.7 倍・67 薬学 3.3 倍・69)

*成績層別の合格率の変化（4年前との比較）

早慶上智 偏差値 65 以上 58%（+8%） 60～65 28%（+6）
55～60 13%（+3%）

MARCH 偏差値 65 以上 75%（+3%） 60～65 57%（+13）
55～60 33%（+13%）

【早稲田大】：志願者は102%と微増。一般方式は106%と増加する一方、共通テストの平均点のダウンで共通テスト方式は88%と減少。

【慶応大】：志願者は103%と5年ぶりに増加。商学（108%）、看護医療（107%）、医学（111%）、薬学（114%）と医療系が特に人気。

【上智大】：志願者は86%と減少。特に共通テスト方式が83%と減少。文学・総合人間では総合問題など対策のしにくさから敬遠。

【東京理科大】：志願者は108%と増加。共通テストで英語・国語のみ合否判定に使うC方式が特に人気。学部別では隔年現象。

【法政大】：志願者は119%と大幅に増加。経営（150%）、経済（137%）英語資格試験を必須とするグローバル教養は66%は減少。

【明治大】：志願者は103%と微増。政経（110%）、文学（110%）農学（111%）は増加で、共通テスト数学必須の商学は92%と減少。

【中央大】：志願者はと減少。一般方式は99%だが共通テスト方式は58%と大幅に減少。受験料の値上げや併願割引制度の見直しが影響。

【立教大】：志願者は96%と減少。大幅な入試変更の影響で一般方式は91%と減少。法学（124%）は唯一増加で経営は84%と低調。

(3)系統別の志願者数

法学 107% 経済 98% 人文 100% 医学 96% 歯学 105% 薬学 104%
理学 99% 工学 109% 農学 105%

*法学、歯学、薬学、工学、農学など就職に有利、資格が取れる、などの理由から実学志向が見られます。

(4) 英語資格・検定試験利用方式の人気

英語資格を必須とする方式

志願者 136,794 人（109%） 合格者 37,419 人（126%） 3.7 倍（4.2 倍）

早稲田大 6,549 人（127%） 法政大 6,192 人（143%） 明治大 5,030（115%）

英検の大学の利用状況

準1級 13% 2級 48% 準2級 35%

4. 医学部の入試状況

(1) 北大 (医学部)

定員 97 人に 315 人 (昨年比 93%) が受験し、3.1 倍の倍率で現役合格率は 61.9%、道内は 33% でした。

模擬試験 (ベネッセ) の偏差値帯別合格率

75~79 74% 70~74 56% 65~69 21%

教科別平均偏差値 数学・英語・物理・化学

(合格) 71.8・73.8・68.1・71.8

(不合格) 62.3・68.5・60.0・62.4 (数学・化学で 9 ポイント)

(2) 札幌医科大学

*一般入試

定員 75 人に対し志願者が 280 人 (102%) で昨年並みでした。合格者は 91 人で現役合格率は 56.1% (51 人) でした。

模擬試験 (ベネッセ) の偏差値帯別合格率

75~79 100% 70~74 94% 65~69 76% 60~64 26%

教科別平均偏差値 数学・英語・物理・化学・生物

(合格) 64.6・68.7・64.5・66.2・67.7

(不合格) 55.4・59.9・53.1・55.0・61.1 (物理・化学で 11 ポイント)

*推薦入試

先進研修連携枠 (20 人) に 58 人、特別枠 (15 人) に 34 人が出願しましたが基準点 700 点を越えたのが、それぞれ 11 人・1 人しかおらず選抜するまでもなく全員合格でした。定員の余った分は一般試験に回りました。

(3) 旭川医科大学

*一般入試

前期 (40 人) は志願者が 178 人 (64%)、受験者が 150 人で合格が 43 人、倍率は 4.3 倍で、現役は 63% で道内は 6 人 (14%) でした。

模擬試験 (ベネッセ) の偏差値帯別合格率

70~74 90% 65~69 33% 60~64 32% 55~59 13%

教科別平均偏差値 数学・英語・物理・化学・生物

(合格) 63.0・70.5・60.6・60.8・64.2

(不合格) 56.3・61.6・54.8・55.9・57.2 (英語で 9 ポイント)

後期 (8 人) は志願者 221 人 (221%) で第 1 次選抜合格者は 97 人、受験者 11 人、

合格者は 10 人でした。合格者の共通テスト最低点は 75% です。

***総合入試**

定員 32 人に 110 人が志願しました。基準点が志願者の中央値で共通テストの合格者平均は 72.1%、合格最低点は 65.3% でした。

5. 本校の 2022 年入試の主要大学合格者数 (現役)

「国公立大」現役 21 人、浪人 10 人 合計 31 人

主な大学：東大 1 (1)、京大 1 (0)、北大 5 (4)、東北大 2 (2) 弘前大 2 (1)、
筑波大 1 (0)、金沢大 1 (1)、はこだて未来大 3 (3) など

「私立大」現役 76 人 (延べ人数)、浪人 65 人 合計 141 人

主な大学：早稲田大 5 (3)、慶応大 3 (1)、上智大 5 (5)、明治大 15 (6)、
中央大 4 (2)、法政大 6 (1)、立教大 7 (4) 東京理科大 12 (7)

「国公立大医学部」： 5 人

旭川医大 2 (1)、札幌医大 2 (2)、防衛医大 1 (1)

「私立大医学部」： 10 人 (全て浪人)

岩手医大、東北医薬大、北里大、日大、帝京大、金沢医大、愛知医大、近畿大
関西医大、兵庫医大

***現役合格率**

理系：54.1% 文系：79.5% 全体：62.8% (71/113)

***共通テスト自己採点判定別合格者 (第一志望)**

A 判定：67% (4/6) B 判定：50% (5/10) C 判定：17% (1/6)

D 判定：29% (2/7) E 判定：0% (0/27)

***自己採点と実際の点数**

完全に一致 14% 高めに自己採点 61% 低めに自己採点 25%

1~10 点高め 35% 10~20 点高め 13% 30 点以上高め 3%

1~10 点低め 19% 10~20 点低め 4%

6. 現高 3 生の成績

(1) 高校 3 年 5 月第 1 回全統共通テスト模試 (河合塾) 平均点 (全国)

英語(筆記) 57.8 (51.8) リスニング 51.4 (45.8) 国語 118.2 (103.9)

数学 IA 52.8 (43.4) 数学 IIB 54.5 (47.8)

5 教科理系 (偏差値) 52.7 (昨年 50.8) 5 教科文系 50.2 (51.7)

(2) 高校3年6月共通テスト模試(ベネッセ)平均点(全国平均)

英語(筆記) 50.4(41.5) リスニング 49.5(43.1) 国語 102.9(93.4)

数学IA 58.8(47.5) 数学IIB 48.6(40.3) 国数英3教科合計 315.8(273.8)

5教科理系 495.3(442.6) 5教科文系 408.9(411.5)

7. 高3生第1回志望校調査

「理系」: 北大13 弘前大6 東北大1 筑波大2 東大1 東工大1 千葉大2
都立大2 京大1 九大2 慶応大1 東京理科大2 ICU2

(医学部): 北大6 札幌医大2 旭川医大3 弘前大3 東北大1 筑波大1
自治医大1 など国立大18, 私立大3

「文系」: 北大1 東北大1 筑波大2 一橋大2 東京外大1 早稲田大9
慶応大1 上智大2 中央大2 立教大1 明学大2 同志社大3
(法学部8人、経済学部9人)

8. 共通テスト理科の選択(受験者の選択割合)

A「基礎科目から2科目」(35%)

B「専門科目から1科目」(10%)

C「基礎科目から2科目および専門科目から1科目」(5%)

D「専門科目から2科目」(50%)

この4種類のうちから大学が指定します。文系はAが一般的で、理系はDが一般的です。「科目選択方法」は9月26日の共通テスト出願時に申告します。

9. 入試のスケジュール

9月初め 共通テスト受験案内の配布

9月15日(木) 志願票の記入(それまでに各自郵便局で受験料の払い込み)
(受験料は18,000円、成績開示はプラス800円)

9月26日(月) 共通テストの出願開始

10月初め 指定校推薦の選考

1月14日(土)15日(日) 共通テスト

1月23日(月) 国公立大出願開始

2月25日(土)～ 国公立大前期2次試験

3月12日(日) 国公立大後期2次試験

10. 推薦・総合型入試

(1) 「学校推薦型入試」

私立大学の「指定校制」は医学部を除けば学校から推薦された生徒はほぼ全員合格します。各大学の提示する基準を満たしていることが条件です。中には共通テストの受験を義務づけている大学（早稲田大学）もあります。国公立大の「公募制」は共通テストを課す大学・学部と課さない大学・学部があります。小論文・プレゼンテーション・口頭試問・実技などがあります。

(2) 「総合型入試」

文部科学省は2025年までに国公立大の定員の30%を目標にしています。国立大の78%、公立大の40%で実施されています。高校からの推薦は必要とせず、書類審査・面接・小論文などで合否を決めます。

主な大学: 北大 159 人 (定員の 6%) 東北大 657 人 (28%) 弘前大 425 人 (33%)

筑波大 582 人 (29%) 都立大 434 人 (28%) 横浜国大 281 人 (17%)

* 上智大は「カトリック高校対象特別入試」を実施し、全国で 341 人が受験し、270 人 (79%) が合格しました。本校は 5 人受験で全員合格でした。

11. 学校で実施した大学入試・入学説明会

6月22日(水)～24日(金)に行いました

【対面】 早稲田大 (40 人) 明治大 (18 人) 北海道医療大 (3 人)

【オンライン】 上智大学 (22 人) 中央大 (18 人) 立教大 (16 人)

ICU (7 人) 同志社大 (9 人) 関西学院大 (11 人)

9～10月 国公立大 (医学部・薬学部・法学部) の説明会を実施予定

12. 2023 年度入試に向けて

(1) 学部学科の新設

一橋大 (ソーシャル・データサイエンス学部) 60 人

名古屋市立大 (データサイエンス学部) 80 人

東京理科大学 (先進工学部) 230 人

(2) 入試の複線化

早稲田大: 教育学部で共通テストを課す方式を導入し、4 方式での実施

上智大: 共通テストで従来の 4 教科型に加えて 3 教科型を新設

青山学院大: 共通テストで既存の科目より必須科目の多い方式を新設